

社団法人 日本循環器学会
2009年度第2回理事会議事録

日時 2009年(平成21年)10月23日(金) 14時38分～17時40分
場所 東京国際フォーラム ガラ棟 6F(602)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1

理事現在数：20名

出席：和泉 徹、小川 聡、小川久雄、北 徹、児玉逸雄、坂田隆造、島田和幸、島本和明、
下川宏明、高本眞一、鄭 忠和、土居義典、友池仁暢、永井良三、松崎益徳、水野杏一、
室原豊明、山岸正和

欠席：堀 正二、堀江 稔

その他出席者

監事：(出席無し)

幹事：白山武司、近森大志郎、寺崎文生、西垣和彦、野原隆司、藤田正俊、堀内久徳、松森 昭、
吉川 勉

アドバイザー：村松孝夫(財団法人日本心臓財団)

事務局：加藤安雄、清水光則

・議事

第1号議案 第77回学術集会会長選出について

第2号議案 委員会報告

- 1) 医療安全・医療倫理委員会
- 2) 禁煙推進委員会
- 3) 専門医制度委員会
- 4) 専門医編集委員会
- 5) 学術委員会
- 6) 学術集会運営委員会
- 7) 学術集会プログラム委員会
- 8) 編集委員会
- 9) 用語委員会
- 10) 情報広報委員会
- 11) WCC 招致委員会
- 12) 国際交流委員会
- 13) 循環器救急医療委員会
- 14) 心臓移植委員会
- 15) 健保対策委員会
- 16) コメディカル委員会
- 17) 財務委員会
- 18) 総務委員会

第3号議案 年次学術集会報告

- 1) 第74回年次学術集会報告
- 2) 第75回年次学術集会報告

第4号議案 委員会委員承認

第5号議案 その他

- 1) 新型インフルエンザワクチン意見交換会について

・議事の経過及び結果

- 1) 定刻になり、小川理事長が議長となり開会した。
- 2) 藤田総務幹事から、出席者数は定款第25条の定数を満たし、理事会が成立していると報告があった。
- 3) 議長が、議事録署名人として第74回北会長と第76回鄭会長を指名し、了承された。
- 4) 藤田総務幹事から、配布資料および回覧資料の確認があった。
- 5) 資料に記載の9名の物故会員のご逝去に対して、黙祷が捧げられた。
- 6) 前回理事会議事録の確認がなされた。

第1号議案 第77回学術集会会長選出について

会長の選出に先立ち議長から、年次学術集会会長候補者が理事会で複数推薦された際の「会長選挙に関する合意事項」について確認があった。

続いて会長の選出に入り、第77回会長について議長は議場に推薦を求めた。これに対して水野杏一理事が推薦された。他に推薦はなく、議長は議場に承認を求め、水野理事が第77回会長候補者として全会一致で承認された。

第2号議案 委員会報告

1) 医療安全・医療倫理委員会

永井委員長遅刻のため坂田委員から以下の点について報告があった

前回議事録の確認。2009年1月開催の本委員会議事録について資料の通り確認された。

臨床研究の利益相反について。日本内科学会から各学会におけるCOI指針・細則の制定の要請を受け、代田浩之委員を中心に作成していくこととなった。

医師推薦報告について。2009年9月までに、最高裁判所より依頼のあった鑑定人推薦を1件、警察署(宮城県警・神奈川県警)より依頼のあった二件について医師推薦を行った。

以上について全会一致で承認された。

2) 禁煙推進委員会

室原委員長から以下の通り報告があった。

喫煙に関する会員意識調査として、2009年4月から6月にかけて会員を対象にアンケートを実施した。無作為アンケート対象2,000名のうち657名から回答いただき、回答率は低いながらも、禁煙あるいは禁煙治療に対する取り組みや意識が、前回2005年度調査よりも増していることが伺えた。ただし回答を集計すると、喫煙率は8.8%であり、前回2005年度調査時の7%余りと比較して、微

増もしくは横ばいという状況である。

第 74 回学術集会において、医師向けの禁煙推進セミナー、ならびに市民向けの禁煙推進市民講座を開催する。市民講座では、特別講演として日野原重明先生に講演をご承諾いただいたため、北会長および事務局長の堀内先生にお願いし、800 名程度が収容できる会場に急遽変更していただいた。たばこを「吸わん」と「スワン」で、白鳥をイメージしたキャラクター『すわん君』を、日本循環器学会の禁煙啓発キャラクターとして、学会が著作権を保有し PR していく。まず 30 万円程度でこのキャラクターを掲載したホームページを立ち上げることを決定した。

財務省と厚生労働省から、来年度の税制改革に関する意見書あるいは要望書の募集案内があり、委員会のメール持ち回り審議の結果、日本循環器学会禁煙推進委員会として、たばこ税の値上げに関する要望書を提出した。

以上について全会一致で承認された。

3) 専門医制度委員会

専門医制度委員会

土居委員長から以下の通り報告があった。

「第 20 回(2009 年度)循環器専門医資格試験結果報告」について、受験者数が 685 名で、合格者 598 名、合格率が 87%であった。合格者は資料のとおりである。

資料のとおり、会費未納により専門医資格喪失となった専門医 1 名より資格復活の嘆願書が届いた。審議の結果、規定に沿って資格の復活を認めることとなった。

日本専門医制評価・認定機構が厚生労働省からの依頼を受けて、日本及び外国の専門医制度を調べて、本邦の今後の認定医制度に反映する目的でワーキングを立ち上げた。循環器学会代表として吉川勉先生がワーキンググループ委員となっている。

「専門医試験日における緊急事態発生時の対応」について資料のとおり、天候や事故による交通機関の乱れおよび伝染病等にかかり、筆記試験への出席が不可能になった場合にも書類審査および審査料を免除の上、次年度の筆記試験の受験を認めることを追記した。

編集委員会から Circulation Journal の査読者への単位付与について要望があったが、専門医研修単位は、研修の機会がすべての専門医に対して公平に与えられるということと、業務の対価(報酬)として与えられるものではないという点から認めることができないという結果となった。同様に現在単位が付与されている ACLS 講習会のインストラクターについても、見直しを行った結果、2010 年 4 月 1 日より単位加算対象から外れることとなった。

資料のとおり「循環器専門医認定更新に関する規定の改定」について専門医研修単位加算条件についての追記および規定の改定に関する最終決裁機関を評議員会から理事会へ変更することとなった。

資料のとおり日本外科学会から外科認定医に代わる「新認定資格」を循環器専門医の基本領域として認定してほしいとの要望が届いた。審議の結果、「新認定資格」への移行措置を設けてもらうことを条件に循環器専門医の基本領域としての「外科認定医」資格を廃止し、「新認定資格」を基本領域として認めることとなった。

「医療安全・医療倫理に関する講演会」のインターネット配信の構築について、3 社に相見積りを取り検討した結果、技術面は 3 社とも大きく変わらないこと、金額的に一番低額であることを受けて株式会社メディカルピスタに依頼することとなった。システム構築の初期費用として 420 万円が必要

となる。

専門医各種申請のオンライン化について、本会の専門医制度の規模を考慮の上、2社に見積りをとった結果、マンパワー面、安全面、技術的なクオリティ面に加えて外科学会のシステムを構築している経験面を十分に考慮してNTT レゾナント株式会社に依頼することとなった。初期費用として3200万円が必要となる。

以上について全会一致で承認された。

4) 専門医編集委員会

専門医編集委員会

友池委員長から以下の通り報告があった。

「循環器専門医」18巻1号の目次確認および18巻2号の目次検討・決定を行った。

Editorial の原稿について、原稿が執筆者から南江堂に提出された時点で専門医編集委員会にて内容を確認することになったことが再度確認された。また、委員会での結論が難しい場合には委員長判断で、理事長や理事へ相談することとなった。内容によっては対立する意見を選んでEditorialではなくコントラバーシーとして掲載することも検討することとなった。

以上について全会一致で承認された。

5) 学術委員会

堀委員長欠席のため和泉委員から以下の通り報告があった。

2008年循環器疾患診療実態調査(主査:友池仁暢先生)は、2008年1月~12月の集計がまとまった。補助人工心臓治療研修関連施設学会協議会の世話人は、今泉勉委員を推薦した。旅費は日本循環器学会が負担する。

大規模臨床試験のJ-CHF試験(主査:堀正二先生)は2009年12月31日の試験終了に伴い後援終了とする。J-REHAB試験(主査:後藤葉一先生)は、試験期間の延長に伴い2011年3月31日まで後援延長とする。ABC Study試験(主査:北風政史先生)は、試験期間延長に伴い、2013年5月31日まで後援延長とする。

2010-2011年度活動新規ガイドライン作成の2班について、資料の通り班構成が決定した。

ステントグラフト実施基準管理委員会決算の報告が資料の通りあった。

2010年度ガイドライン改訂版11ガイドライン(部分改訂)と2ガイドライン(全面改訂)の班長を次の通り決定した。

- ・心筋梗塞二次予防ガイドライン(班長:小川 久雄先生、助成金100万円、2010年度部分改訂)
- ・急性心不全治療ガイドライン(助成金50万円) 班長:和泉 徹先生、2010年度部分改訂)
- ・成人先天性心疾患診療ガイドライン(新班長:八木原 俊克先生、助成金100万円、2010年度部分改訂)
- ・大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン(班長:高本 眞一先生、助成金50万円、2010年度部分改訂)
- ・虚血性心疾患に対するバイパスグラフトと手術術式の選択ガイドライン(班長:落 雅美先生、助成金50万円、2010年度部分改訂)
- ・心臓血管疾患における遺伝学的検査と遺伝カウンセリングに関するガイドライン(班長:永井 良三

先生、助成金 50 万円、2010 年度部分改訂)

- ・臨床心臓電気生理検査に関するガイドライン(班長：小川 聡先生、助成金 50 万円、2010 年度部分改訂)
- ・循環器診療における放射線被ばくに関するガイドライン(班長：永井 良三先生、助成金 50 万円、2010 年度部分改訂)
- ・不整脈の非薬物治療ガイドライン(班長：奥村 謙先生、助成金 100 万円、2010 年度部分改訂)
- ・肺高血圧症治療ガイドライン(班長：中西 宣文先生、助成金 200 万円/2 年間、2010 年度～2011 年度活動(全面改訂)
- ・虚血性心疾患の一次予防ガイドライン(班長：島本 和明先生、助成金 200 万円/2 年間、2010 年度～2011 年度活動(全面改訂)

2007-2008 年活動「循環器医のための心肺蘇生に関するガイドライン」(班長：笠貫宏先生)のタイトル変更依頼があり、「循環器医のための心肺蘇生・心血管救急に関するガイドライン」に変更する。ガイドラインダイジェスト版英訳について、班長から希望のあった 21 班について順次英訳を作成をする。2009 年度は「日本のガイドラインを海外に発信する際に意義の高いもの」を基準に 5 班選出し決定次第順次作成を開始する。

「冠動脈疾患におけるインターベンション治療の適応ガイドラインー待機的 PCI 」について「CABG の適応、PCI の適応を含まない」と心臓外科側からの疑義・異論があり、内科系、外科系それぞれ 3 ～ 4 名からなる協議会を立上げ、解決策の提案と適応について内容を議論し方向性を示すこととする。その結論を、藤原班改訂版と 2010 年度活動の「虚血性心疾患に対するバイパスグラフトと手術術式の選択ガイドライン」改訂版(班長：落 雅美先生)の両ガイドラインにおいて尊重し、作業を進めていく。なお、藤原班のガイドラインは、活動期間を 1 年間延期とする。協議会の委員には、心臓血管外科学会の高本 眞一理事長と当学会の小川 聡理事長を含める。

循環器救急医療委員会から「循環器疾患の救急医療体制改善を学会から国・地方自治体・各種団体へ訴えるための資料として基礎データの提供依頼」があったが、基礎データの漏洩・紛失回避のため、提供はしない。但し、解析調査については、2009 年調査(調査対象：2009 年 1 月 1 日～12 月 31 日)以降の調査依頼文面に「日本循環器学会が認めた場合、本調査以外の目的でデータを使用することがあります。ただし、その場合も個別データが公表されることはありません。異議・質問がある場合はお知らせください。」と記載し、異議・質問のある施設のデータを除いて解析を行う。

以上について、賛成多数で承認された。

6) 学術集会運営委員会

児玉委員長から以下の通り報告があった。

編集委員会から Circulation Journal の国際化を図るため、第 74 回学術集会において International Associate Editor (IAE) 11 名の〔参加登録費用免除・会長懇親会への招待〕の依頼があった。第 74 回では導入時期とし、11 名のうち 2～3 名をセッションに組み入れて招待する。

第 75 回以降も毎年 2～3 名の IAE をセッションにて招待できるよう会長校で検討する。

2009 年度留学支援基金支給対象者は、廣野 恵一(富山大学小児科)、河野 隆志(慶應義塾大学循環器内科)、田中 孔明(新潟大学第一内科)の 3 名。各人に 100 万円を支給する。

海外招待者来日にともなう租税関係書類提出は、国間に定められた法律であり免除を受けるための

書類提出は必須である。今後は、具体的な指示をわかりやすく記載すること、必須箇所には 印をつけること、督促は1~2度行うこととし、提出がなかった場合は学術集会特別会計から納税する。未提出者が多い場合は、会長校にて督促の回数を検討することが一任された。

留学中の日本人会員が学術集会に座長又は演者で招待される場合、第74回からは、海外施設での教授や研究室保持者以外の通常の留学会員には、一律に旅費・謝金・参加費・宿泊費を含めて手取り30万円を支払う。但し、留学者が海外招待者待遇(ビジネスクラス実費、謝金、参加費、宿泊費の支給)又は30万円とするかの判断については、会長校に一任する。

編集委員会から美甘レクチャーおよび特別講演海外招待者の CJ 誌への総説執筆依頼時期について、来日決定の段階に送付したいとの要望があり、第74回学術集会からは、執筆依頼に〔執筆は必須条件ではない、総説執筆の辞退可、共著者でも可、執筆料\$1,000〕を記載した上で、学術集会会期前の1月~2月頃に送付を行う。

編集委員会から欧米では学会誌のレベルアップを図る目的で Late-breaking Clinical Trial(以下、LBCT)の演題をオンラインジャーナルに掲載することが開始されているため、CJにも同様に掲載することについて依頼があった。第74回ではLBCT12演題のうちCJの質を損なわないよう質の高い演題を編集委員会で選出を行い掲載する。

サテライトセミナー(冠攣縮研究会)からファイアサイド枠開催の要望があり、共催セミナーの要項に沿って取り扱う。

日本 IHE 協会から昨年同様に共催セミナーと展示ブースの無料提供依頼があった。2008年11月委員会決定事項に基づき、過去の実績や歴史にはとらわれず毎年対応するとし、会長校に一任する。

アジアからの演題採択者に対してはトラベルグラントを支給してきた。香港は中国とは別の国として扱い10万円であったが、香港と中国では渡航運賃に差異がないため第74回からは、中国と同等とし10万円から5万円に変更する。

第74回からのコメディカル、研修医、日本にいる留学生が参加する場合は、学会所定の証明書の提出を要することとする。

財団法人循環器病研究振興財団から第75回に、研究成果発表会を開催することの依頼があった。本プログラム枠90分セッション内での開催申請ではあるが、第75回のみ単独開催であることを受けて承認する。

以上について、全会一致で承認された。

7) 学術集会プログラム委員会

松崎委員長から以下の通り報告があった。

第75回学術集会(小川 聡会長)のプレナリーセッション・シンポジウムの構成は次の通りとする。

- ・「CKD」「弁膜症」「肺循環・末梢循環」「糖尿病・内分泌代謝」の4カテゴリー追加
- ・プレナリーセッション、シンポジウムとも、例年通り全て90分枠で開催
- ・AHA-JCS、ACC-JCS、ESC-JCS、APSC-JCS ジョイントシンポジウムの座長

また、次回12月18日に開催する委員会において、セッションテーマ及び座長を決定する。

以上について、全会一致で承認された。

8) 編集委員会

編集委員会

下川委員長より以下の通り報告があった。

International Advisory Board の Dr. Helmut Drexler(Germany)がご逝去、Editorial Board に竹石恭知先生が復帰となり、2010 年 Vol. 74 No. 1 より委員会組織が変更されることについて報告された。

編集委員長の元に、編集業務を補佐する目的で職員を臨時雇用した。給与に関しては、資料の通りであるが、住宅手当・通勤手当・退職金に関しては、今後要求があれば検討する。業務に関しては、海外との折衝を主とする。

平均 75 編 / 月の投稿論文を受付けており、約 70%が Clinical Investigation、15%が Experimental Investigation である。海外からの投稿は約半分である。全体として、quality が高くなって来ている印象が強く、来年の Impact Factor が更に上がるのを期待する。

Circulation Journal の国際化を図る一環として、CJ 目次のニュースレターを海外の循環器の研究者にも配信する。かかる費用に関しては資料の通りである。

Vol. 74 No. 1 より、全頁カラー化することとなり、これまでのカラー (Figures) 料金が無料となる。

本年 10 月より動画を含む Supplementary files の受付を開始し、Images in Cardiovascular Medicine というセクションを新設した。

学術集会時に、International Associate Editor を含む編集委員会・会合を設ける場合は、IAE の宿泊費を支払うこととする。費用は資料の通りである。

本年より、地方会抄録 Supplement がオンライン化されたことを受け、編集委員会内規を変更した。

以上について全会一致で承認された。

9) 用語委員会

山岸委員長から以下の通り報告があった。

ICD-11 作成作業に関し、ICD 専門委員および国際ワーキンググループ対応委員を用語委員会の下部組織とし、用語委員会のメンバーとなってもらうことで、情報交換と運営を容易とする。また今後の実務作業に備えて、ICD 改定作業委員会を用語委員会の下に設置する。具体的な人数及び作業内容は、今後 WHO からの連絡があり次第検討する。

ICD 改定作業に関し、厚生労働省から海外での会議出席に関する委員の旅費負担要請があり、今年度に限って 2 回分 140 万円の支出を行う。

『循環器学用語集』の第一回の改訂作業を行った。変更点については、ホームページおよび会告等に掲載する予定である。

用語集を民間のウェブサイトに掲載したいという依頼があったが、当該サイトの実情を検討し、今回は見合わせることにした。

以上について、全会一致で承認された。

10) 情報広報委員会

坂田委員長から以下の通り報告があった。

JCS Newsletter の配信状況について資料の通り報告された。

2009 年 9 月 25 日に第 3 回プレスセミナーが開催され盛況のうちに終了したことが報告された。
以上について、全会一致で承認された。

11) WCC 招致委員会

松森委員長から以下の通り報告があった。

6 月 29 日と 8 月 31 日に開催された WCC2010(中国、北京)プログラム委員会での出張報告があった。
WCC2012 年開催地決定を促すために 9 月 30 日付けで、招致レターを WHF に送付した。

10 月 10 日に開催の WHF 理事会において、WCC2012 年開催地決定の方法が具体的に明示された。10 月中には、最終候補地である 5 都市(ケープタウン、ドバイ、京都、メキシコ、シンガポール)に対して質問状が届いた後に 2010 年 2 月頃開催地決定となる。よって、WCC2012 年招致活動は 2010 年 2 月まで行う。2 月に未決定の場合は、2014 年に招致活動を切り替える。

日本心臓財団と共催で活動している World Heart Day として、2009 年 9 月 26 日にサッカースタジアムでのキャンペーンを行った。

WCC2012 開催の予算、準備金の使途、参加者数については、今後慎重に検討を行う。

以上について、賛成多数で承認された。

12) 国際交流委員会

国際交流委員会

鄭委員長から以下の通り報告があった。

ESC の Affiliated National Society の 1 学会として JCS が参加していることについて、AHA や ACC と同じ立場で ESC と交流していくことが重要であり ESC 側に要望書を提出する。

第 73 回会長の堀正二先生から依頼のあった基金(学術集会の国際化を進めるための基金: 31.5 百万円)使途について、今後国際交流委員会で検討していく。

海外ブース広報用として学会当日の様子を収録した DVD を作成する。

国際名誉会員の規程に、副賞 1000 ドルを支給することを盛り込んだ。

2 ヶ月に 1 回程度京都にて開催されている APSC 事務局打合会に、APSC 担当の国際交流委員を JCS 代表として派遣する。

以上について、全会一致で承認された。

13) 循環器救急医療委員会

小川久雄委員長から以下の通り報告があった。

市民向けのホームページコンテンツ「プッシュ&コール」が経費約 30 万円で完成した。

AHA とのコラボレーションとなった市民啓発用冊子「心臓発作や心停止、脳卒中の警告症状」が完成した。製作費用は野々木宏先生の厚生省科学研究班 J-PULSE の研究費から負担いただいた。

関東甲信越支部が BLS/ACLS 事務局をモリーオ株式会社に委託し、これまで停滞していた業務が円滑に進んでいる。

また討議事項として下記の起案があった。

蘇生科学小委員会を中心に心原性ショックレジストリ事業を行いたい。2009 年度は準備アンケート

を行い、2010 年度に方策と予算を検討して、実質的には 2011 年度から開始したい。
以上について全会一致で承認された。

14) 心臓移植委員会

島田委員長から以下の通り報告があった。

2009 年 9 月 30 日現在の心臓移植および心肺同時移植適応検討の状況については資料のとおりである。心臓移植については、2009 年 2 月以降 8 ヶ月間移植実施がされていない状況である。現在ネットワークに登録して待機している患者は 142 名で、以前は 100 名前後であったので、増加している状況である。

臓器移植法の改正が成立し関連学会との協議会が活発に開催されている。資料の議事録のとおり心臓移植関連学会協議会では、移植実施施設の拡大を行う方向で検討された。また、今後は適応検討などを各移植実施施設の責任で行い、本委員会は施設の再評価や問題事例の検証を担うべきであるとの考えでまとめ、その方向で進んでいくこととなった。

日本医学会から依頼のあった臓器移植法改正に関する意見聴取について、資料の「わが国における心臓移植体制と今後の日本循環器学会心臓移植委員会活動の在り方に関する提言」を学会の意見として提出する予定であるので、月末までにご意見をいただくよう依頼された。

臓器移植法改正に伴い、日本小児循環器学会から心臓移植の各委員会に小児科系委員の拡充依頼があり検討を行った。しかしながら、前述のとおり本委員会の在り方について変革が求められていること、また小児の移植医療も急に増加するとは考えにくいので、現在のところ委員拡充は保留することとなった。

現在検討されている親族への優先提供に関して、心臓に関しては個体唯一の臓器であり、親族の自殺・自殺関与による提供などが考え得ることから、それに対する規制を設けるべきであるとの意見があった。

以上、～ について全会一致で承認された。～ については検討の結果、学会として「心臓移植における親族への優先提供に関する要望書」を永井理事（厚生科学審議会疾病対策部会臓器移植委員会委員長）に提出することで全会一致で承認された。

15) 健保対策委員会

和泉委員長から以下の通り報告があった。

平成 20 年度診療報酬改定の検証作業について、全体の概要が見えてきている。循環器関係では、売上は減少しているが、調整係数によって補填されているため利益としてはそれほど減少していないと思われる。学会独自のデータを確保するため、今後も JCS 主導の DPC 調査は継続する。

平成 22 年度診療報酬改定については、中医協の委員が決まらないためほとんど動いていない。また MDC5 の改定については、ほぼ JCS の要望した方向でなされる予定である。

ガイドラインと診療報酬の齟齬については、ガイドラインの現場への浸透率および実際の疾患での適用率も併せて、慎重に検討していく。

冠動脈ステントの適応に関する厚労省からの意見依頼については、内科・外科双方を含む作業グループを設置して検討する。特に、禁忌事項の取り扱いについて慎重に検討を進める。

以上について、全会一致で承認された。

16) コメディカル委員会

水野委員長から以下の通り報告があった。

コメディカル委員のメンバーについて、コメディカル分野の委員を増員するため、関係の学協会に委員推薦を依頼している。

第75回年次学術集会から、学術集会のコメディカル部門の運営やプログラムを学術集会の主幹大学とコメディカル委員会が協力して運営をしていく。

以上について、全会一致で承認された。

17) 財務委員会

北委員長から以下の通り報告があった。

2009年度補正及び2010年度当初予算案の作成スケジュールについて確認がなされ、2010年度概算要求の申請にあたっては、資料の予算方針に則り提出すること。

資料にある賛助会員2社の新規入会が認められたこと。

8月末日現在の「一般会計」、「専門医特別会計」及び「学術集会特別会計」の収支執行状況について、資料の通りであり、いずれの会計でも補正予算を組む必要性が認められたこと。

また、会計及び業務監査の結果が資料の通りであること。

2008年度決算で挙げた今後の課題、新公益法人制度に関して、

- ・TR事業のため、事務局建設準備基金全額、施設充実基金全額、記念事業基金から94,600千円の資金を充てる。

また、記念事業基金残金5,400千円は、当面の事業計画がないことから、上述の2基金と合わせ目的を解消すること。

- ・上述以外の基金は、公益認定申請の2011年度実施を目標に、内容、金額含め、必要に応じて見直ししていくこと。
- ・各会計間の内部取引については、資料の(a)を2010年度から廃止、(f)以外の(b)~(e)、(g)、(h)は2011年度をもって廃止すること。
- ・新定款案記載の実施事業別に会計の組み替えを行った結果、収支相償を満たしにくい事業が見受けられたため、実情の把握、事業内容の見直し等の検討を要すること。

学術集会運営基金の用途について、資料の提案に基づき、関係の委員会にて具体的な用途について検討を進めること。

A P C C 2 0 0 9へ助成していた3千万円について、全額返戻を受けたため、国際学会準備基金へ積みますこと。

W C C 招致委員会より、W C C 2 0 1 2に対する資金援助の申し出を受け、剰余金がある場合には優先的に返戻を受けることを条件に国際学会準備基金から依頼額の1億円を援助すること。

以上について、賛成多数で承認された。

18) 総務委員会

小川聡委員長から以下の通り報告があった。

医療放射線防護協議会について、今後も協力関係を継続したいという意見があり、JCSとして参画

する。

定款・定款施行細則の変更案の概要について、ホームページおよび会告にて公開し、会員からのパブリックコメントを年内一杯の間求めている。

CJ論文の無断転載について、警告文を関係三社に送付し、三社から謝罪文が届いた。また今後の予防として、ホームページに注意文を掲載した。

ジェネリック薬品メーカーからの雑誌広告掲載については、賛助会員になっていただいた上で、掲載依頼を受諾する。

会員処分規程を資料の通り作成し、運用機関として「医道委員会」を新たな常設委員会として設置する。委員は関係の深いと思われる委員長（専門医、編集、医療安全・医療倫理、学術集会運営）の宛職とする。また委員長については、児玉理事に依頼する。

以上について、全会一致で承認された。

第3号議案 年次学術集会に関する件

1) 第74回年次学術集会報告

第74回学術集会北徹会長から以下の通り報告があった。

特別講演予定の Dr. Pierre Jais がキャンセルにより Dr. Ulrich Sigwart に変更、トピック「高血圧から慢性心不全への移行を如何に遅らせるか」の1題を追加、コントロールバシー「冠動脈ステントの選択」の1題を追加した

一般演題は 4,121 題、コメディカルセッションは 416 題の応募であった。コメディカルセッションについては全てを採択する。

海外招待者はスポンサー付きも含めて 80 名を予定している。

3月4日(木)夕刻に、ホテルグランヴィア京都で、心不全、高血圧とインターベンションをテーマとして、それぞれスポンサー付きで3題のプレセッションを開催する。

以上について、全会一致で承認された。

2) 第75回年次学術集会報告

小川聡会長から以下の通り報告があった。

2011年3月18日(金)~20日(日)を会期とし、パシフィコ横浜で開催する。

プログラム委員会では企画を検討しながら、準備・活動を始めた。

予算に関しては本会事務局と相談しながら、一次予算を確定する。

以上について、全会一致で承認された。

第4号議案 委員会委員の承認

議長から、前回理事会以後に生じた各委員会の委員等の異動について資料の通り提示され、承認された。

第5号議案 その他

1) 新型インフルエンザワクチン意見交換会について

厚労省からの依頼を受けて、日本循環器学会を代表して島田和幸先生が出席され、以下の通り報告が

あった。

優先対象者（基礎疾患を有している人）のインフルエンザワクチン接種定義について各学会代表者の意見交換がされた。

慢性心疾患、高血圧を除く慢性心疾患で、特に NYHA 2 度以上の場合はワクチン接種を優先することを提案した。

2) インフルエンザ心筋炎

藤田総務幹事より、以下の通り報告があった。

新型インフルエンザで急性心筋炎を併発する 2 症例を経験したという報告があった。

学会として、急性心筋炎に対する対策を表明し、メディアその他に対応を統一しておく必要がある。

同先生からの報告を受けて、インフルエンザ心筋炎症例報告をホームページに掲載すること、第 74 回学術集会時にインフルエンザ対策セッションを設けることになった。特任委員として、和泉徹先生と松森昭先生が任命された。

以上について、全会一致で承認された。

以上をもって本日の議事を終了し、議長から長時間の議事についての謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人はこれに署名押印する。

2009 年 10 月 23 日

社団法人 日本循環器学会 2009 年度第 2 回理事会

（署名）

（捺印）

議 長 小 川 聡

議事録署名人 北 徹

同 鄭 忠 和

（以下余白）